

横綱

太宰治

二、三年前の、都新聞の正月版に、私は横綱男女みなノ川がわに就いて書いたが、ことしは横綱双葉山に就いて少し書きましよう。

私は、角力すもつに就いては何も知らぬのであるが、それでも、横綱というものには無関心でない。或る正直な人から聞いた話であるが、双葉山という男は、必要の無いことに対しては返辞をしないそうである。お元氣ですか。お寒いですね。おいそがしいでしょう。すべて必要の無い言葉である。双葉山は返辞をしないそうである。

何とか返辞をしろ、といきり立ち腕力に訴えようと

しても、相手は、双葉山である。どうも、いけない。

或るおでんやの床の間に「忍」という一字を大きく書いた掛軸があった。あまり上手でない字であった。いずれ、へんな名士の書であろうと思ひ、私は軽蔑して、ふと署名のところを見ると、双葉山である。

私は酒杯を手にして長大息を発した。この一字に依つて、双葉山の十年來の私生活さえわかるような気がしたのである。横綱の忍の教えは、可憐である。

底本…「太宰治全集10」ちくま文庫、筑摩書房

1989（平成元）年6月27日第1刷発行

1998（平成10）年6月15日第4刷発行

底本の親本…「筑摩全集類聚版太宰治全集」筑摩書房

1975（昭和50）年6月～1976（昭和51）年6
月

初出…「東京新聞」

1944（昭和19）年1月13日発行

入力…増山一光

校正…土屋隆

2006年1月27日作成

青空文庫作成ファイル..

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫
(<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、
校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで
す。